



地球は生きている —ガイア理論が教えてくれること—

心 あ っ た か ニ ュ ー ス

地球は一つの生命体であると唱えたのが、ガイア理論で、アメリカ航空宇宙局 (NASA) に勤務していた科学者であるジェームズ・ラブロックにより提唱されています。ウィキペディアによると、生物は地球と相互に関係し合い、自身の生存に適した環境を維持するため、自己制御システムを作り上げているとする仮説また、そのシステムにある種の「巨大な生命体」と見なす仮説である。という事です。この理論は、とても日本人には、受け入れやすいものではないかと感じました。太陽をお天道様、物に命があつて、物の方からの気持ちを感じてしまうことを、抵抗なくしてしまふ民族です。ガイア理論Ⅱ一つの生命体の要点は、1 大気、海、土壌、生物がバラバラではなく、全体で自己調整するシステムとして働いている。酸素濃度、気温、海の塩分濃度が生命に都合のいい範囲に長期に保たれています。2 生物の方も適応するだけでなく、環境を作っている。植物は、酸素を増やし、

微生物は、土壌と大気の成分を変え、海洋生物は、化学バランスを保つ働きをしています。3 地球は恒常性を保とうとします。恒常性Ⅱホメオスタシス、は生物において、その内部環境を一定の状態に保ち続けようとする傾向のことですが、地球では、気温が上がると雲が増え、日射が弱まる。CO₂が増え、植物が増えCO₂の吸収が進む、海の水のPHなど、地球の環境は、元へ戻ろうというシステムが働いています。恒常性は、生物がもつものですが、地球が生きているという、理論もなるほどなうなずけます。となると、気になるのが、地球には、なぜいろいろな生命が存在して、人はなぜ存在し、人の地球に対する役割、地球はどうしたいのか？ということだと思いました。これは、日本人は、得意だと思っています。おそらく古代の日本人は、ここを明確にして暮らしていたのではないかと思えます。地球からしたら、自然と人は同じ生きるものかもしれせん。地球さんが、一つの大きな生であるなら、意志疎通できたらいいですね。国際保護連合 IUCN のレッドリストには、絶滅危惧種からはずれた、4万8千種の野生生物が記載されています。2025年(これらの生物は、絶滅危機から救われ、保護

されており、環境保全の取り組みの成果として評価されているそうです。現在日本の絶滅危惧種は、イリオモテヤマネコ、コウノトリ、トキが知られています。ラッコも2024年からはいつています。国内施設での飼育頭数は年々減り、今や3頭しかいないそうです。ラッコが生息するためには、綺麗な海の環境が必要となります。ゴミを川や海に捨てないなど、きれいな海を目指していききたいと思えます。

編集後記

地球が一つの命だとして、私たちは、地球にとつて、どんな存在なのでしょう。ともに生きる細胞なのか？それとも癌細胞なのか？地球の気持ちを考えてみる。その瞬間から対話が始まりました。